

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 あらゆる暴力の根絶	② 施策番号	1511
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	2 男女がともに個人として尊重され、自由な活動ができるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 あらゆる暴力の根絶		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
総合政策部	人権推進課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象（誰、何に対して施策を実施するのか）	市民
② 意図（対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか）	暴力や虐待の発生を未然に防ぐ。
③ 環境（この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか）	配偶者からの暴力は増加傾向にあり、市町村においても配偶者暴力相談支援センターの設置が求められている。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標（成果指標）		単位	指標とした理由・考え方
①	DV相談受付件数	回	DV相談受付件数により、事業の実効を量る。
	計算式		
②	DV被害者一時保護件数		DV被害者一時保護件数により、事業の実効を量る。
	計算式		
③			
	計算式		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
①	DV相談受付件数	件	目標値	—	—	—	—	—	
			実績値	71	74	103	—	—	
			達成率						
②	DV被害者一時保護件数	件	目標値	—	—	—	—	—	
			実績値	2	2	1	—	—	
			達成率						
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性	
1	配偶者等からの暴力防止啓発事業	DV相談受付件数	件	74	103	—	405	386	386	A	ア	◎
2	配偶者からの暴力相談・防止事業	DV被害者一時保護件数	件	2	1	—	1,222	1,160	1,207	A	ア	○
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	2						1,627	1,546	1,593			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	配偶者からの暴力等に関する啓発等により、あらゆる暴力の根絶について、市民への理解を促進し、被害者の不安解消、暴力や虐待の発生を未然に防ぐ。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	DV相談受付件数等から取組の必要性が伺える。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	本施策は行政の責務と考える。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	現状では適切と考える。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	配偶者からの暴力は、未然に防ぐことが非常に重要であるため、啓発事業等を重点化する必要がある。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	暴力や虐待は絶対に許されないという機運を高めるとともに、事案発生時には、関係機関による速やかな対応に努める。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	DVに関する啓発講座を定期的開催し、暴力や虐待は絶対に許されないという気運を醸成していく。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	事案発生時の速やかな対応に備え、関係機関の連携を深める。
中長期的対応 (3～5年をめどに取り組む改善案)	—

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	DVに対する講座の開催や相談活動、一時保護の実施による施策達成に向けた取組が適切に実施されている。 施策における今後の事業展開を計画的に実施するためにも、成果指標の目標設定について検討されたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある